



日本内分泌学会 男女共同参画推進委員会 (JES We Can) 東海支部のご紹介

東海支部における JES We Can C の活動は、2009 年 4 月に山本眞由美先生、草田典子先生(現在は勇退)によりスタートアップされ、続いて脇、赤羽貴美子先生、村上雅子先生、中嶋祥子先生、山守越子先生が順次委員に加わり、2020 年からは山下美保先生、小杉理英子先生にも参画いただいています。本チームは「JES We Can Tokai」と自称しています。

JES We Can Tokai 発足当初より東海支部会からは積極的なサポートいただき、2019 年度からは東海支部役員会に JES We Can Tokai 代表者もオブザーバー参加させていただき、支部会や支部学術総会開催会長と密な連携を図っています。特に毎年の開催会長各位には細かくご配慮いただいております。直近では、2021 年 9 月開催第 21 回東海支部学術集會会長近藤國和先生には、一般演題セッションの座長に若手と女性を積極的にご登用頂き、女性比率を 63%(5/8)にまで高めて頂きました。

JES We Can Tokai の活動の中心は、この毎年の東海支部学術集會における「JES We Can Tokai 企画セッション」です。テーマには参加者全体を対象にしつつ女性の視点を反映させ、女性会員が企画運営を担当することによりキャリア経験に寄与することを目的とし、多様な会員参加による学会の活性化を目指しています。JES We Can Tokai 全員でテーマや演者候補を決め、それに向けて主担当者が、演者との交渉、開催会長や運営サイドとの交渉、当日の講師接待、座長としてセッション運営、会計、事後アンケート調査結果と総括レポート作成など一連の作業の経験を積み、主体的学会参加のトレーニングとなっています。今までの開催歴を後に記しました。全体のプログラムの中での配置やスポンサリング、懇親会の設営等様々に試行錯誤して参りましたが、2019 年に有馬寛先生が会長をされた集會以降は、日本内分泌学会専門医資格更新単位付与指定講演に充てていただくようになりました。

また 2020 年第 93 回日本内分泌学会総会(会長 緒方 勤先生 浜松医大)時の総会 JES We Can 企画も初担当いたしました。新型コロナ禍のため急遽 WEB 開催となり、オンデマンドで座長も演者の音声もない PPT の画像掲載のみで、大変残念でした。

しかし東海支部は、来る 2023 年の第 96 回総会会長に有馬 寛東海支部長(本学会理事長)や 2024 年の第 33 回臨床内分泌代謝 Update 会長の鈴木敦詞先生を擁し、陪席する JES We Can Tokai にも次々と大舞台での活動の場が与えられる見込みで、嬉しい(?)悲鳴を上げています。

今後もメンバー一団となって担当企画を運営し、学会活動に貢献して参ります。

<東海支部学術集會での活動>

- ◆第1回(2011 年)「女性医学の役割」 苛原 稔 先生 (徳島大学医学部 産婦人科)
- ◆第2回(2012 年)「女性の common disease としての摂食障害—最近の動向と新しい知見」 鈴木(堀田)真理 先生 (政策研究大学院大学保健管理センター)





- ◆第3回(2013年)「症例に学ぶ～甲状腺疾患と妊娠」
荒田尚子 先生 (国立成育医療研究センター 母性医療診療部代謝・内分泌内科)
- ◆第4回(2014年)「下垂体機能低下症の補充療法 ～GH・性腺系を中心に～」
肥塚直美 先生 (東京女子医科大学 高血圧・内分泌内科)
- ◆第5回(2015年)「下垂体診断の病理診断:その有用性について」
山田正三 先生 (虎の門病院 間脳下垂体外科)
- ◆第6回(2016年)「Cushing 症候群の臨床」
沖 隆 先生 (浜松医科大学 地域家庭医療学)
- ◆第7回(2017年)「下垂体腺腫の病理 ～腫瘍細胞を病理学的に考える～」
井下尚子 先生 (虎の門病院 病理診断科)
- ◆第8回(2018年)「免疫チェックポイント阻害薬による下垂体機能低下症、甲状腺機能異常症の特徴と発症機構」 岩間信太郎 先生 (名古屋大学糖尿病・内分泌内科)
- ◆第9回(2019年)「21 水酸化酵素欠損症患者の移行期医療の問題点」
水野 晴夫 先生 (国際医療福祉大学医学部 小児科学)
- ◆第10回(2020年)「FGF-Klotho 内分泌系から見た慢性腎臓病の病態生理」
黒尾 誠 先生 (自治医科大学 分子病態治療研究センター)
- ◆第11回(2021年)「生殖内分泌と不妊治療」
安藤智子 先生 (日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 産婦人科)

<日本内分泌学会学術総会での活動>

第93回(2020年) シンポジウム:

これから子供をもつ若年男女の健康・妊孕性と epigenesis から次世代の健康を考える

- 1)「卵巣機能から考えるプレコンセプションケア」原田 美由紀 先生(東京大学 産婦人科)
- 2)「無精子症からの挙児獲得治療戦略」石川 智基 先生(リプロダクションクリニック)
- 3)「次世代の健康のエピゲノム制御」小川 佳宏 先生(九州大学 大学院医学研究院 病態制御内科学)

文責 脇 昌子

